

経営者が語る
「経営の転機」
No.147

精密板金加工技術でモノづくりの基盤を支える
試作から量産まで、お客様ニーズに一貫対応

株式会社ユウキ工業（代表取締役会長）
結城昌臣



専門性の高い技術領域『精密板金加工』で存在感を発揮 通信・自然エネルギー機器、事務機器、インテリア用品など 幅広い先端産業のトップメーカーから、ご愛顧をいただく

40歳を過ぎて入った、
金属加工の世界

プロフィール欄(P9)にも記しましたように、20代前半からずっと、手伝いも含め、さまざまな職業に身を置いてきました。とにかくいろいろな経験をさせてもらいました。見方によっては、人生の下積み時代を余

儀なくされてきたかのようにとらえられがちですが、私自身にとってはとりわけ、幅広く人々との出会いがあった点において、楽しくも輝かしい人生の数ページであったと思います。

30代後半に、当時勤務していた会社解散となりました。そんなとき、たまたま出会った働き口。それが神奈川県相模原市内の金属加工(「精密板金」)の会社だったので。昭和57年、38歳にしてお世話になることとなります。全く未経験の世界でしたが、ほどなく現場業務も営業活動も任され、取り仕切る立場に。工業高校機械科で3年間学び、最初の就職先も電機メーカーの工場でした。そのころに培われた「現場感」のようなものが、まだこの身に染みついており、それが評価されて抜擢されたのではないかと思います。

安定した会社に勤務することができました。責任も持たされ、大きなやりがい感も…。そんな日々を送っていたのですが、入社4年後の昭和61年になって突然、会社の経営が立ち行かなくなってしまう事態に。資金繰りの問題が大きなネックになってしまったようです。会社消滅となるからには、身の振り方をどうしたのか。決断のときを迎えていました。

事業承継のカタチで 「ユウキ工業」立ち上げ

社内外を含めて関係先一同、大混乱に陥るなか、私のもとへ得意先(大手メーカー)の幹部の方々や外注先(下請け協力会社)などから、事業継承への強い要望が寄せられてきます。金融関係の方からも、協力の申し出を頂戴します。これはもう、やるしか



ない! 何とかやっつけていけるだろう! と、覚悟を決めます。それにしても、なぜ社歴の長い方や肩書の重い方を差し置いて、この私に事業継承者として白羽の矢が立ったのでしょうか。理由は私自身、いまだによく分かっています(笑)。

昭和61年、みなし法人「ユウキ工業」を立ち上げました。工場も設備も持てる余裕がなく、とりあえず管理会社として事業をスタート。得意先からオーダーのあった金属部品な

などを外注先へ製作発注し、製造・納品する業務をこなしていきます。同年中には、得意先からの要請もあり、有限会社組織へと改組（その18年後の平成16年には、株式会社組織へと改組）を果たしています。

事業を立ち上げてからすぐに、いわゆるバブル景気がやってきて、私どもの業界も沸くに沸くような状況となります。事業環境としてはありがたいものの、困ってしまったのが外注先確保の問題でした。



ならばこの機会に、自身で製造し

ていくような事業構造へと転換を図ろう。そう決断して昭和63年、相模原市内に工場を借り、機械設備メーカーの協力のもとで最小限の設備を導入し、内製化をスタートさせます。会社にとつての、大きな転機のひとつだったと思います。

新工場立ち上げ&事業構造転換

通信機器、自然エネルギー機器、そして事務機器。日本を代表する先端産業分野における、どなたもご存じのようなメーカーさんたちからご意見をいただき、当社業績は安定的に推移していきます。いつその成長を期して平成19年、かねて取得済みの550坪の土地に、新しく事業拠点を立ち上げます。現在の本社工場です。

ところがその直後、日本社会を襲ったリーマンショックにより、当社業績にも少なからぬ影響が及んできます。受注減、売上減が如実になってきたのです。経営リスクの回避と、会社の永續のために何をなすべきなのか。真剣に考え、施策の立案と実行に努めてきました。



とりわけ重視してきたのが、取引先拡充ならびに新規製品領域の開拓発掘です。事業内容の特質性から、いわゆる営業専門部隊を社内には置く必要性も、意味合いもないと考えています。いい仕事さえしていれば、クチコミで評判が広がり、新しい受注に結び付いていきますし、WEBメディアを通じた情報発信も受注活動の後押しをしてくれます。実際、その効果には絶大なものがあると感じています。

へにかく一度、当社を訪れてその目で、お役に立てる存在であるかどうか、お確かめください。設備、技術力、そして人材力。すべてをご覧になったうえで、他の同業との違いを判断ください。

そんなスタンスでお客様と接してきました。それがまさに、当社にとつての営業力になってきたのだと思います。

前述した通信機器や自然エネルギー機器、事務機器などに加え、■製作および量産の精密板金加工一式、■電子機器部品、■各種装置、■配電盤、■筐体などへと領域を広げました。

業績安定化実現の裏に、これらの



施策があったことは、申し上げるまでもないでしょう。

社長職から引退、 後継は長女・北澤芳恵に

41歳での事業立ち上げという、いわば遅咲きの経営者人生を歩んできた私です。50代半ばになったころには、もう後継のことを考えはじめ、60歳を迎えた時点で社長職引退を心に決めていました。会社の発展・永続のためには、早めのタイミングでの代

替わりが必須であると考えていたからです。

後継には、古い考えかもしれませんが、長女である芳恵を就かせるべきだろうと思っていました。某メーカーの事務職として都内に勤務していた彼女を説得し、家業・ユウキ工業へと誘います。経理や総務、人事、経営管理など内部業務全般に経験を積んでもらった後、私が60歳を迎えたまさにその年、平成16年に社長に就いてもらいました。私自身は会長職へと一歩退き、経営全般に関してアドバイスを送るような立ち位置で日常業務をこなすようにしています。業務管理効率化に向けたデジタル化推進など、デジタル世代ならではの知識と発想で、よりいっそうの利益を生み出せるような未来像へと、取り組みを進めてもらっています。

同業の間では、いまだに女性経営者の存在自体が珍しく、否が応でも目立ってしまいがち。この点もある意味で、当社経営にとってプラスに作用しているのではないのでしょうか。いずれにしても構想どおりの早い時期での後継が叶い、私自身の経営者人生がいかに幸運なものであったかと、実感させられているところです。



結城昌臣 ゆうき まさおみ

昭和19年、福岡県福岡市に生まれる。高校卒業と同時に神奈川県川崎市の大手電機メーカーに就職し4年間勤務。その後、名古屋市にて菓子・食品向けの製袋事業を営んだ後、神奈川に戻り、妻の実家家業の手伝いや牛乳配達、畑づくりなどさまざまな職に携わる。調理師免許取得後、屋台での立ち食いうどん店営業も。同57年、38歳で神奈川県相模原市の金属加工会社に再入社。4年後の同61年、周囲からの要請と応援を受けて事業継承会社「ユウキ工業」立ち上げ。代表に就いた

代表者 代表取締役会長 結城昌臣
代表取締役社長 北澤芳恵
創業 昭和61年
設立 昭和61年
事業内容 精密板金、レーザー加工、レーザー溶接
所在地 〒252-0254
神奈川県相模原市中央区
下九沢1093-1
電話 042-700-8070
URL <https://yuki-k.co.jp>